選ばれ続ける開催地へ 進化する「沖縄」

～沖縄ならではの価値を未来へ紡ぐ～

OKINAWA Japan
Where inspiration meets

2021年、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）の会期中、「観光におけるグラスゴー宣言」が発表され、観光業での「2050年『ネット・ゼロ』達成」という目標が発表された。日本政府も2020年に「カーボンゼロ」宣言を行っている。「ゼロ」は環境にとどまらず、「誰一人取り残さない」持続可能な社会・経済活動の実現をめざすもの。MICEの主催・開催においても、今やサステナビリティの概念は責務でもある。

このような中、沖縄県ではさまざまなステークホルダーとともに全県的なSDGsの浸透と主流化をめざし、2021年9月に「沖縄県SDGs実施指針」、2022年5月には同指針に基づいた「おきなわSDGsアクションプラン」を策定し、沖縄らしいSDGsを推進している。

沖縄県・沖縄観光コンベンションビューロー（OCVB）では、和歌山大学 観光学部 教授でGSTC（Global Sustainable Tourism Council）の理事を務める加藤 久美氏を策定メンバー（委員長）へ迎え「沖縄MICE開催におけるサステナビリティガイドライン（2022年）」を完成させた。この中で加藤氏は、「地域目線に基づくサステナビリティ活用を実際の現場で示していくことは、世界的にも価値ある先進事例」[1]と今回の取組みを評する。同ガイドラインに沿った取組みを通じて沖縄でのMICE開催を成功に導くとともに、唯一無二の沖縄の歴史・文化・自然環境を未来へと継承することが期待されており、①万国津梁の精神が受け継がれた寛容なヒトと土地、②自然豊かなリゾートが創り出す非日常、③成長するアジアの玄関口に位置し、日本経済再生のフロントランナーとしてアジアとつながるビジネス交流拠点の形成といった、MICE開催地としての沖縄のブランド「Where inspiration meets（ひらめきや創造性と出会える場所）」をさらに高めることに繋がっている。

沖縄MICEネットワーク[2]では、このガイドラインをもとにサステナビリティへの取組みを啓発するため、県内事業者を対象に具体的な事例等を共有するセミナー等を実施。一方、沖縄県・OCVBでは「NEW＆SUSTAINABLE」をテーマに「沖縄MICEプロジェクト2022」[3]を開催するなど、官民が一体となって「沖縄ならではの持続可能なMICE開催」に向けた取組みを進めている。

美しいサンゴ礁や貴重な野生動物が生息する豊かな自然環境、琉球王国時代の中国や東南アジア諸国等との交易・交流により形成された独自の文化、そして古来より受け継がれてきた平和の希求、多様な価値の受容、相互扶助といった独自の精神文化を育み昇華する沖縄県。

その歴史の中で脈々と受け継がれてきた「万国津梁」の精神は、沖縄の基本理念ともいえるものである。まさに世界の架け橋「沖縄」での「沖縄ならでは」のサステナブルなMICE開催は、今日も多様な事業者、チーム沖縄の果敢なチャレンジによりさらなる進化を遂げている。

沖縄MICEネットワークでは、MICE開催地としての価値を高めるこのチャレンジを支援し、事業者のサステナビリティへの取組みを強化する考えだ。

ひらめきや創造性と出会える場所「沖縄」の進化は、主催者の開催目的やニーズ、社会の変化を的確にキャッチし、あなたのMICEを必ずや成功に導いてくれるだろう。

沖縄でのMICE開催成功を多様な関係者が全力でサポートする。（2018年撮影）

1）加藤氏の評：「沖縄MICE開催におけるサステナビリティガイドライン」メッセージより
2）沖縄MICEネットワーク：「MICEを通じた知的・ビジネス交流の促進」や「MICEの活用・推進による県経済・産業の活性化」による沖縄振興の実現をめざし、多様な関係者による「お互いの垣根、競争・競合関係を超えた連携や、MICE振興に関する産学官の協働した取組みを推進する組織（事務局／沖縄県、沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県産業振興公社）
3）沖縄MICEプロジェクト：今後沖縄への誘致が期待できるMICEの主催関係者を招聘し、沖縄の魅力あるMICEコンテンツおよび県内MICE関連事業者を紹介、沖縄県でのMICE開催誘致促進に繋げることを目的とした招聘ツアー＆商談会

沖縄での開催効果を高めるサステナブルなコンテンツ

サステナブルで沖縄らしい「かりゆしウェア」のレンタル

(株) BAGASSE UPCYCLE

沖縄県の基幹農作物であるさとうきびの未利用資源「バガス（搾りかす）」。（株）BAGASSE UPCYCLE（バガスアップサイクル）はこの資源に着目し、日本の伝統技術を掛け合わせ高付加価値化（アップサイクル）した「かりゆしウェア」を開発。地球に優しい循環型製品を認定する「CHOICE! ZERO WASTE AWARD」にも選定された同製品のレンタル（シェアリングサービス）により循環経済を実現している。製品寿命を終えたウェアは回収され、焼却ではなく炭化することによりCO2排出量を90%も削減。炭化後は肥料の一部として再び自然へと還っていく。サステナブルかつオリジナルデザインの「かりゆしウェア」で、心も体も軽やかな新しい沖縄でのMICEシーンを提案する。

彩る島の食材と地域の持続可能なおいしいを巡る

ロワジールホテル那覇

ロワジールホテル那覇が新たに開発したMICEプログラムのコンセプトは、「持続可能な取組みを通じて地域の魅力と出会う」。中でも、サステナブルMICEパーティプラン「三餐の夕べ」は、沖縄の価値ある食材（沖縄美ら海マグロ、首里王朝蜂蜜、島豆腐、島野菜）選定によるフード・マイレージ削減、食材の未利用部分（皮やヘタ等）の活用など、食に関する地域課題の解決に取組むプログラムだ。提供品目を従来の19品から27品と拡大させながらも、食糧の輸送に伴って排出されるCO2量を73%削減することに成功した（ビュッフェ 100名：2020年10月時点の算出）。ほかにも、同ホテル周辺地域の歴史・文化・生態系を学ぶフィールドワークプログラムも用意している。

多様な海洋生物が生息する「サンゴ」を守り育てる植樹

(株) DMC沖縄

海洋の豊かな自然環境を育むサンゴ礁。沖縄では、亜熱帯特有の強い雨が降るたびに粒子の細かな赤土が地表から海に流出してしまい、サンゴをはじめとするさまざまな生物に影響を与えている。（株）DMC 沖縄が石垣島エコツアーりんぱなと共同開発したこのプログラムでは、サンゴと密接にかかわる島の環境や生活、サンゴ保護プロジェクトに関するレクチャーにより環境への理解を深め、耕作放棄地での植樹や除草活動を通じて地域環境の保全に貢献できる。活動後には、植樹記念プレートの設置（記念撮影）や感謝状発行のほか、沖縄から離れた後も継続的に植樹後の観察レポートを受け取ることができるなど、沖縄でのMICE開催を通じた主催者の付加価値提案に大きく貢献する内容となっている。

地域と繋がるあったかい心の旅「ビーチクリーン＆地域散策」

(株) マナティ

（株）マナティでは“地域と繋がるあったかい心の旅”をテーマとしたプログラムを提案している。CSR活動として馴染み深い「ビーチクリーン活動」を、MICE参加者だけで完結させるのではなく、地域の方（パートナー）と共に活動することで交流が生まれ、クリーン活動後の「地域散策」を通じて訪れた地域の自然、文化への理解を深めるもの。パートナーは県内各所に広がっており、離島での開催もアレンジ可能。参加者からは、地元の人との関りが持て学びや発見があった、グループでの活動が参加者間の交流を促進した、などの好評価が寄せられている。「地域貢献＋地域住民との交流」により、参加者の満足度を高めることはもとより、MICEの開催価値を更に高めることが期待できる。

沖縄MICE開催におけるサステナビリティへの取組み

https://mice.okinawastory.jp/reason/sustainability/